尾崎雅嘉の続異称日本伝の写本七種

――異称日本伝の類書続編の研究・第九部――

石原道博

目次

一　問題の所在――写本七種について
二　東京大学史料編纂所本について
（一）　体裁と叙文
（二）　抄撮書目
三　国立国会図書館本について
（一）　体裁と引書目録
（二）　東大史料本との比較

一　問題の所在――写本七種について

本稿は、文部省科学研究費によるわたくしの研究「異称日本伝の類書続編の研究」第九部・各論七にあたる（註1）。わたくしが、尾崎雅嘉の続異称日本伝をはじめて調査したのは上野帝国図書館本であり、東大史料編纂所本をしっ

たのはそののちであった。いま、近出の国書総目録・第五巻をみると、尾崎雅嘉編の続異称日本伝の写本として、つぎの六種を一括あげている。

A　国立国会図書館本（第一冊欠、三五巻序目一巻一〇五冊）

B　内閣文庫本（二冊）

C　静嘉堂文庫本（有欠、三一五巻九〇冊）

D　京都大学本（欠本、九冊）

E　慶応大学本（幸田）（巻二五〇―二五二、一冊）

F　東京大学史料編纂所本（巻二一五欠、目録共三一五冊）

ところで、また一項をたてて、「尾崎雅嘉、続異称日本伝抄撮書目、一冊、東大」とあるから、これをつぎのGとする。

G　東京大学本（抄撮書目、一冊）

こうみてくると、尾崎雅嘉の写本は計七種あることになる（註2）。ところで続異称日本伝という同名異書は、わたくしのしるかぎり、すくなくとも五種あるようであり、その選者は岡本保孝・畔田伴存・小原良直・尾崎雅嘉、および選者不詳である。これについては別稿で論じた。右のCDEについては現在調査中であるが、Bの調査の結果は撰者不詳であって、尾崎雅嘉とする根拠がわたくしにはわからない（註3）。

さて、尾崎雅嘉の続異称日本伝の写本を、戦後はじめて上野帝国図書館で調査したのは、昭和二十四年（一九四九）のことであり、その経過については一部を中間報告したこともある（註4）。このたび数年がかりで、国会図書館本（上野帝国図書館本）一〇五冊のマイクロ撮影を推進し、また、Fにあたる東大史料本三一五冊のうち、第一冊総目

録の部分（Gにあたる）の撮影を、昭和四十年（一九六五）十二月、当時の竹内理三所長の特別のはからいで許可されたので、ここに両写本の体裁や内容について、その大要をうかがうことができた。戦前からの宿願をひとまず果したこのよろこびは、先学・同学の学恩のたまものであり、感懐もひとしおふかい。本稿は、紙幅の関係で、とりあえずその要点を略記したものである。

二　東京大学史料編纂所本について

（一）　体裁と叙文

東大史料本は三一五冊、美濃判、線装袋綴。半葉十一行・行二十字。行書体のきれいな写本（註5）。第一冊は「目録」、表紙うらに、三字三行「東京帝国大学図書印」の押印、L23208 のナンバー、第一葉前には、左上に「表題紙剝落」とあり、右下に一行「史料編纂掛」の押印。同後には、二字三行「東京大学図書」、三字三行「史料編纂所図書之印」の各押印、23100 のナンバー。そして、第二葉と第三葉前にかけて、つぎのような叙文がみえる（註6）。

続異称日本伝叙

吾日本懸居洋中、与四方諸域初不相通。是以事之／称於異邦者、殊罕矣。及三韓属我、諸蕃次之。中葉聘／唐留学、往来稍繁。其後彼此衰乱、葦航路絶。足利之／時、僅倚僧侶通信。又以其失馭、致我流賊掠彼辺疆。／至豊臣伐韓、明兵来援、頗多事。故今時諸域昇平、独／有諸蕃商船交易、韓与琉球則以時来聘而已。即通／塞随時而易、率二千年間之久、散見異邦伝記者、／亦不尠焉。学者欲得其詳、以博知識且以資抵掌之／楽、而群籍浩瀚、歴覧而採摭之、其事不易。先輩松下／見璘、蓋有慨於此。乃有異称日本伝之著、就彼之諸／史子集収摭事之、関我者罔羅匪遺。而猶多脱漏不／備、読者恨焉。浪華尾崎先生博覧強記、少楽佔俾、諸／餘増補此書、頃将卒業、為凡

三百十有五巻、可謂勤／矣。先生曾著群書一覧、於国書莫不載其概略。或／疑非一手所能辨云。今観此書、抄録積蓄如此、其富／且備亦不須借他手、則如一覧、固易々耳。先生著作／率以此自楽、不期歳月。故不労而成、非如人拮据辛／苦、汲々求速成者也。或者云、所謂以小人之腹、度／君子之心焉爾。夫先生著作、以自楽而成、乃不独自／楽、無使覧者同楽、其為楽広矣。余也、最為窮郷乏書／者、斯書之出、将与寓目、及其乞序、楽而書之。先生名／雅嘉、字有魚、以字行。

備後　茶山菅晋師撰

年月の記入がないのが残念であるが、これは菅茶山（一七四八―一八二七）の序である。茶山は漢詩人。名は晋師、字は礼卿、通称は太仲、私諡して文恭先生という。著に筆のすさび四巻・黄葉夕陽村舎詩二十三巻がある。茶山の序は、かなり推敲されており、はじめに日朝中三国の歴史的交渉をのべ、つぎに松下見璘（林）の異称日本伝に言及、尾崎雅嘉（有魚）はその「脱漏不備」を「増補」するために、続異称日本伝三百十五巻を撰したという。雅嘉は群書一覧の著者であるが、これまでかれ一人の専著ではあるまい、と疑われていた。しかし、この大著続異称日本伝をみると、群書一覧の専著ぐらいは易々たるものと、うなづける。雅嘉の著作は「自楽不期歳月」という悠々自適、マイペースのやりかたで、「拮抗辛苦、汲々求速成」というめくじらたてたにわか仕立て、焦躁や短兵急なところがない。「自楽而成」ったこの書は、おそらく同学の人びとにも、ひろく同じ楽しみをわかちあたえよう、といっている。茶山の指摘には、わたくしも同感であり、はからずもわたくし自身の研究の姿勢を反省させられている。因みに尾崎雅嘉（一七五五―一八二七）は国学者。字は有魚、通称は俊蔵・春蔵、号は蘿月庵。儒学、また歌道にすぐれた。著に群書一覧のほか、百人一首一夕話などがある。

（二）　抄撮書目

東大史料本の特色は、第一冊すべてが「目録」であること、すなわち「続異称日本伝抄撮書目」として、巻之一から巻之三百十五までの引用書目を、巻次別に一括して、総目録をかかげている点である。今日の常識からいえば、これほどの大著に目録や索引のあるのは当然かもしれないが、古書には往々、大綱的な目次・目録さえ欠けているものがある。じつは、第三章でのべる国会図書館本には、この種の総目録がないから、全百五冊を一冊づつ披見しなければ、その引書目録の見当さえつかない。さて、第一冊第四葉目から、右の「抄撮書目」が巻次別に、半葉十一行・行二段のかたちでしるされている。なお第四葉前、右下には押印二つ上下がみられ、上は二字三行「道看□□羅月」下は二字二行「有魚之章」とよまれるから、本写本は著者尾崎雅嘉（字は有魚、号は蘿月）のものと推定あれる（註7）。

本書の内容はもとより、その引用書目についても、わたくしがかってそのはじめの数巻について紹介した以外、まだ学界に発表されたことがない。したがって、かなりの紙幅を要するが、ここではじめて「続異称日本伝抄撮書目」の全容を紹介する。全五十二葉、巻別二段書きのものを、紙幅の関係ですべてベタ書きに改めた（＊印は本文に「二見」、＊＊印は「三見」とみえるもの。カッコ（　）内、およびナンバーも石原加筆）。

巻一（1～21・二十一部）　1前漢書　2王氏談録　3列朝詩集　4蓬窓日録　5西湖志　6太湖備考　7行厨集　8書隠叢説　9雷音頭陀怪松記　10慵斎叢話　11芝峰類説　12海篇正宗　13広事類賦　14竺菴尺牘　15丹桂籍　16花史左編　17薪里茆屋図詩　18蕭鳴草　19字彙　20秘書兵衡　21明李湘山贈名妓芳野詩

巻二・巻三（22・一部）　22全浙兵制

巻四（23～50・二十八部）　23考槃餘事　24滄溟集　25近光集　26四庫全書簡明目録　27知不足斉叢書　28七経孟子考文並補遺　29朝鮮金仁謙詩　30朝鮮南玉詩幷筆語　31朝鮮成大中詩　32朝鮮元重挙詩幷筆語

33朝鮮南玉成大中尺牘　34朝鮮申維翰筆語　35朝鮮姜栢詩文　36朝鮮李鳳煥詩　37朝鮮朴敬行詩文
38朝鮮柳逅詩　39朝鮮李命啓詩　40朝鮮南泰耆詩　41朝鮮李命啓柳逅朴敬行李鳳煥等湖州八景詩　42朝鮮
李士迪詩　43朝鮮李礩詩文并筆語　44朝鮮洪舜衍詩文　45朝鮮厳漢重詩　46朝鮮南聖重詩文　47朝鮮趙
泰億詩　48朝鮮洪世泰詩文　49清董晴東菴詩稿序　50続編博古存什
巻五（51～62・十二部）　＊51（8）書隠叢説　52舜水文集　53曝書亭集　54佩文斎書画譜　55昭代叢書
56翁鳴岐券文　57蔣嵩三星子　58医学啓蒙彙編　59大応国師塔銘　60張瀛文萬病皆鬱論序　61清客手簡
62桑韓筆語
巻六（63～67・五部）　63穀山筆塵　64玉楼春　65雑字采珍　66白石遺文　67朝鮮往復書簡
巻七（68～100・三十三部）　68眉公秘笈真本見聞録　69眉公秘笈真本太平清話　70琉球国志略　71清周朱等
復言　72百花詩註　73晩香堂小品　74笠翁十種曲　75鄉環記　76朝鮮聖欣日本字　77香祖筆記
78天地萬物造化論　79戒菴漫筆　80送五良大輔呉祥瑞帰日本詩　81天工開物　82明詩正声　83廸吉録
84菅相渡唐図賛　85梵竺仙読釈円月中正子詩　86海防纂要　87武備要覧　88西湖月覲十二月紀　89何氏
兵録　90経国雄略　91焚香七要　92蓬窗続録　93清斎位置　94譜雙　95文昌雑録　96王氏書苑
97春風堂随筆　98皇明文則　99独立禅師長崎逢友詩　100長崎唐館天后宮額字
巻八（101～133・三十三部）　101保民訓要　102求法僧寂澄牒　103鄭成功尺牘　104朝鮮姜沆是尚窩記　105朝鮮
姜沆惺斎記　106僧悦山書以呂法　107孟涌九日本字　108陳元贇草山元政詩叙　109朝鮮国修好書　110程剣南
俳諧歌訳　111僧尼孽海　112清王昊日本雙刀歌　113清陳忝尹日本刀歌　114清張遠詩　115餘冬序録　116唐
詩類苑　117三体詩法　118牧隠詩藁　119儲光義集　120唐詩品彙　121古文世編　122朝鮮李礩白石詩集序

123朝鮮趙泰億白石詩集序　124朝鮮任守幹白石詩集序　125朝鮮李邦彦白石詩集序　126清鄭任鑰白石詩集序
127朝鮮権敬酬石川丈山詩　128朝鮮権敬石川丈山詩巻序　129朝鮮金東溟贈淀城永井公詩　130朱舜水饗礼式
131清拙正澄遺嘱　132萬暦中製輿地図　133漂流船主申状

巻九（134～153・二十部）

134瑯琊代酔編　135李肇国史補　136湘山野録　137堯山堂外紀　138鍾氏詩帰
139皇明文徴　140李杜全集　141訥斎集　142醒狂存稿　143宋学士全集　144客商規略要覧　145西域聞見録
146桃蕖編　147泉志　148唐伯虎詩　149明史　150中唐十二家詩集　151石倉十二代詩選　152明詩帰　153晋安風雅

巻一〇（154・一部）　＊154（149）明史

巻一一（155～169・十五部）

155遊草　156質問本草　157居東集　158江湖風月集　159孟涌九国字　160唐六典
161兵垣四編　162席上談序　163元々唱和集　164一峰雙詠　165独立西湖詩　166恵果和尚行状
167虚白禅師語録　168古唐詩合解　169仏国禅師語録

巻一二（170～179・十部）

170弇州四部稿　171白石琉人問答　172陳臥子明詩選　173扶桑禅林僧宝伝　174留青日札　＊175（4）蓬窻日録　176両山墨談　177四六文精　178本朝一人一首詩　179周行修覧

巻一三（180～191・十二部）

180読書敏求記　181北礀詩集　182女仙外史　183釈道本尺牘　184趙天潢尺牘
185朝鮮洪滄浪筆語　186朝鮮成翠虚詩　187朝鮮安斎斎詩　188朝鮮姜沆歴代名医伝略序　189草木子　190当麻寺化仏織造藕絲西方聖境図説　191刀剣儀飾質問唐客答語

巻一四（192～203・十二部）

192群書備考　193東西洋考　＊194（176）両山墨談　195朝鮮松雲与藤清正書　196寧波府諭文　197大津紀事　198明張文相書　199安南総鎮営書并清都王令旨　200弘事撮要　201寧波府鄞県咨

202茶餘客話　203小説選言
巻一五（204～221・十八部）　204補註李滄溟文選　205国朝七子詩集註解　206方城集　207釈心越鎌倉志序
208一覧亭集　209隆蘭渓建長寺鐘銘　210俊明拯詩　211寧一山建長寺円鑑讃　212印月江建長寺円鑑讃　213元
僧本無建長寺円鑑讃　214元僧梵琦建長寺円鑑讃　215登壇正鵠　216大清律集解　217高麗国牒　218司馬光伝
家集　219薬性要略　220萬書萃錦　221貞和集
巻一六（222～243・二十二部）　222寄苕漫草　223林学士詩集　224灼艾集　225広輿記　226開巻一笑　227通志
略　228万暦帝賜本光国師剳付　229徐一貫仙巣詩　230篇海類篇　231琉球聘翰　232朝鮮聘使寄備州太守詩
233香祖筆記　234芸文類聚　235甲乙剰記　236順徳県志　237新昌県志　238繁昌県志　239長洲県志　240東
嵒艸堂評訂唐詩鼓吹　241類書纂要　242塵餘　243明何倩甫林上珍詩史
巻一七（244・一部）　244日観要攷
巻一八（245～248・四部）　245天下郡国利病書　*246(3)列朝詩集　247唐詩品彙　*248(116)唐詩類苑
巻一九（249・一部）　249武略神機
巻二〇（250～251・二部）　250中山伝信録　251翰林館課纂
巻二一（252～259・八部）　252隠峰野史別録　253鄭所南心史　254偃曝談餘　255其慎集　256全唐詩話　257偃
渓和尚語録　258継燈録　259尚理編
巻二二（260～268・九部）　260胡雲客日本篇　261沈草亭書　262柏岩禅師聴月集　263笑林広記　264琉球往復書
265朝鮮聘使緩期書　266南源禅師東遊草　267南遊集　268湧幢小品
巻二三（269～275・七部）　269万暦帝勅諭日本国王平秀吉璽書　270朝鮮国王与琉球国王書　271安南国書柬

272天南国書柬　273呂宋国書柬　274柬埔寨国書柬　275朝鮮国書柬

巻二四（276・一部）　276白麓蔵書鄭成功伝

巻二五（277～287・十一部）　277西河合集　278九辺万国人跡路程全図　279咬嚕吧船主鄭青雲呈状　280寧波府鄞県護照　281厦門海防庁咨文　282寧波府鄞県咨文　283嘉興府平湖県咨文　284文海披沙　285慵斎叢話　286矩洲文集　287両邦医談

巻二六（288～309・二十二部）　288東漢史刪　289歴朝伝統録　290法筆寒潭　291四朝聞見録　292毛西河贈僧悦山詩　293徐氏筆精　294福州人書牘　295朝鮮国王書　296朝鮮李匡世書　297清商孫均南妻朱華尺牘　298日朝餘響　299清槎唱和　300紙箋譜　301唐詩鼓吹　302九霊山房集　303五種秘竅全書　304朝鮮国王書　305中山王書　306朝鮮国倭舘禁牌　307柳崖外編　308化竜通考不求人書　309説鈴

巻二七（310～329・二十部）　**310（3・246）列朝詩集　311虚堂和尚送南浦詩　*312（?）殊域周咨録　313東国輿地勝覧　314籌海重編　315日本考略　316弘簡録　317続字彙補　318学圃雄疏　319泰西水法　320征韓録　321草木薬方雑記　322永覚禅師詩　323宋人送僧帰日本図賛　324魚準和尚自像賛　325天童慰弘盛和尚語録　326刻蔵縁起　327詹仲利墨竹賛　328海国聞見録　329雁魚新編

巻二八（330～362・三十三部）　330外国書簡　331践好録　332朝鮮朴真卿沈静録序　333万国輿図説　334貪歓報　335醉蓮居韓客唱和巻　336和韓吟巻　337紡授堂集　338玉芝堂談薈　339朝鮮済谷詩　340朝鮮聾窩日本字　341清銭雲亭日本字　342清人贈日本漂商（客）扇頭詩　343宣和集古印史　344小西行長印章　**345（176・194）両山墨談　346太平御覧　347伝心法要後序　348新増格古要論　349本草綱目　350医林四書　351爾雅　352西斎詩話　353通雅　354七修続稾　355唐書　356留青日札　357西湖遊覧志　358万姓統譜　359泊宅編

360官制備攷　361卓氏藻林　362円機活法
巻二九（363・一部）　363吾学編
巻三〇（364～366・三部）　＊364（363）吾学編　365華夷変態　366異国往来
巻三一（367～370・四部）　367仁王護国般若経疏　368仁王護国経疏神宝記　369仏法金湯編　370護法録
巻三二（371～372・二部）　371威海衛志　372舜水文集
巻三三（373～382・十部）　373太平寰宇記　374寧一山奥州御島碑文　375明人陸仁綿屏山詩并序　376琉球聘使越来王子唱和詩　377中山詩文集　378唐朝与高階遠成告身　379明商書簡　380元僧祖元奥州燕沢碑文　381東京国信牌　382明商借票
巻三四（383～399・十七部）　383虞初新志　384古論大観　385観世音持験記　386憨山老人年譜自叙実録　287皇明金剛新異録　388絶徼同文紀　389孝経大全　390書言故事　＊391（147）泉志　392氏族大全　393小補韻会　394廿二史纂略　395朝鮮国往復書簡　396安南国都統書柬　397元国牒高麗書　398元呉元輔詩　＊399（20）秘書兵衡
巻三五（400～410・十一部）　400武英殿聚珍版書直斎書録解題　401四庫全書附存目録　402明文翼運　403万氏家伝養生四要　404類書纂要（別本）　405攷古質疑　＊406（180）読書敏求記　407海篇朝宗　408訂正篇海　409五雑組（俎）　410康熙字典
巻三六（411～427・十七部）　411例案全集　412定例全編　413定例成案合鏑　414欽定戸部則例　415韓人与庖丁野呈文　416続字彙補　417清人応釈意戒需和歌訳辞并贈詩　418略青全集　419朱緑池二筆賦　420智囊補　421耳譚　422沈草亭竹林七賢図題辞　423無文印　424漢委奴国王印　425硯雲甲編　426朝鮮金氏兄弟詩

427朝鮮国王書柬

巻三七（428～436・九部）　428楚石禅師真蹟　429僧寂澄求法目録跋　430禅林類聚　431董鎬真蹟　432堅瓠集　433栖真館集　434禅開策進　435海篇棲鵠　436今古奇観

巻三八（437・一部）　437海嶽山房存稿

巻三九（438～444・七部）　＊438(437)海嶽山房存稿　439薛文清公文集　440舒文節公全集　441皇明開国臣伝　442万錦全書　443山菴雑録　444皇明中興聖烈伝

巻四〇（445・一部）　445李忠文先生留丹集

巻四一（446～448・三部）　＊446(445)李忠文先生留丹集　447澹寧居文集　448況太守治蘇集

巻四二（449～453・五部）　449可南蜚英　450演機新編　451高鶴林詩　452水東日記　453東渡諸祖伝

巻四三（454～455・二部）　454安南紀略　455安南国書

巻四四（456～466・十一部）　456沈草亭長崎八景詩　457天童普明禅師書　458朝鮮人応酬詩巻　459芸林尋到源頭　460山海経広註　461四夷考　462羅圭峰文集　463清顧鎮色線正名　464広治平略　465太上感応篇箋註図説　466前漢書評林

巻四五（467・一部）　467独湛禅師語録

巻四六（468～476・九部）　468国朝律賦偶箋　469六部新例成案続増　470通雅　471延享朝鮮聘使書柬　472鄭氏往復記事　473十八史略　474佩文斎書画譜　475韓使日光山詩　476唐詩趣

巻四七（477～483・七部）　477金華府志　478李退渓文集　479万暦剳子　480揚椒山集　481永楽帝璽書　482許儀後条開日本事情　483琉球国王書

巻四八（484～488・五部）　484対州来聘韓使一行交名　485韓客筆語　486朝鮮安僉知鐘銘解　487朝鮮国書柬
488朝鮮信使対州客館唱酬詩
巻四九（489・一部）　489善隣国宝記
巻五〇・巻五一・巻五二（490・一部）　490通文館志
巻五三（491～493・三部）　491（490）通文館志　492琉球久志親雲上雨夜物語　493琉球某氏和文
巻五四（494～495・二部）　494陳元贇尺牘　495皇明象胥録
巻五五（496～506・十一部）　496詳刑公案　497朝鮮使人贈玉仲和尚詩　498旧版惺窩文集朝鮮人詩文　499沈草亭倭
画舞女贄　500千丈禅師文抄　501事類全書　502呉琚書帰去来辞跋　503清商楊雪渚贈長崎岐山科書　504欽定
大清会典　505紅楼夢　506琉球聘使一行交名
巻五六（507～510・四部）　507七録斎集　508鳴鳳記　509問槎畸賞　510清鄭士竜贈長崎妓肖像
巻五七（511～519・九部）　511道山紀略　512東皐琴譜　513清商楊蘭洲呈状　514清商沈秋屏張秋琴呈状　515奇聞
類紀　516留青日札　517菽園雑記　518殊域周咨録　519間中今古録
巻五八（520～526・七部）　520陳法全書　521姓氏譜纂　522朱舜水尺牘　523清医胡兆新覆文　524事物原始
525説類　526鴻苞集
巻五九（527～531・五部）　527石丈山詩陳元贇批評　528石丈山詩雪堂董翁批評　529石丈山詩朝鮮権敬批評　530大
高季明詩何債甫林上珍批評　531祗白玉辛卯東遊稿朝鮮人批評
巻六十（532～535・四部）　532姚叔祥見只編　533梁渓詩鈔　534芝山会稿　535芝山別集
巻六一（536～538・三部）　536正字通　＊537（52）舜水文集　538上用沈南頻畫幅名目

巻六二（539～549・十一部）　539王文正公大学問　540日本書紀　541伽藍開基記　542盍簪録　543王陽明贈五山堆雲序　544延享和韓唱和録　545雑林情盟　546隠元禅師語録　547四知堂詩稿　548訳語太上感応篇　549清李江晋日本国雑劇歌訳文
巻六三（550～551・二部）　550名山楼詩集　551名山楼詠物百首
巻六四（552～564・十三部）　552詹仲和葦牧斎額字跋　553来舶清人きる官日本字　554呉岳忠自画賛　555髪飾録　556人天宝鑑　557明黄友賢詩　558中山王使齎来書翰　559宗簡斎集　560董昌仁書　561費晴湖贈名妓花扇詩　562梅厓贈宗五郎画　563典籍便覧　564清周銘書
巻六五（565～577・十三部）　565池草亭手書戯文　566由拳集　567膾餘雑録　568雲棲大師山房雑録　569唐絶類奇　570薬性纂要　571薬性大全　572耳譚　573詩法指南　574学仏考訓　575敬堂訂補万宝全書　576韓使筆語　577朝鮮聘使人命告状
巻六六（578～580・三部）　578江関筆談　579琉球聘使記　580和韓来往書式
巻六七（581・一部）　581金雲翹伝
巻六八（582～593・十二部）　582資治通鑑綱目三編　583釈臣亭詩　584明僧来復詩　585唐詩別裁集　586国朝名公詩選　587旧唐書　588旁註四六類函　589高郵州志　590通州志　591傷寒正々誤　592欣賞編　593明詩綜
巻六九・巻七〇・巻七一・巻七二・巻七三（594・一部）　594籌海図編
巻七四（595・一部）　＊595（330）外国書簡
巻七五（596～599・四部）　596朝鮮往復書柬　597異国往来　598践好録　599南浦文集
巻七六（600～602・三部）　600壊風藻　601仙巣稿　602盍簪録

巻七七（603～608・六部）　603物理小識　604鉄網珊瑚　605六臣註文選　606菊譜百詠　607昭文県志　608医意商
巻七八（609～617・九部）　609弇州四部稿　610好音館漫筆　611夏恵霖扇頭書　612西遊記行　613適情集　614鐘銘集　615武侯韜略秘書　616東夷考略　617朝鮮碧霞亭日本字
巻七九（618・一部）　618上諭条例
巻八〇（619～620・二部）　619定例成案合鐫　620欽定礼部則例
巻八一（621～623・三部）　621定例全編　622例案全集　623欽定戸部則例
巻八二（624～635・十二部）　624六部題定新例　625成案続編　626呂祖全書　627朝鮮金善臣紀行序　628楊子文編
629続皇明詩選　＊630（409）五雑組（俎）　631広東新語　＊632（？）月令広義　633文徴明尺牘石刻　＊634（308）不求人全編　＊635（250）中山伝信録
巻八三（636～640・五部）　636塩尻　637安斎随筆　638読耕文集　639征韓録　640長崎通商信牌
巻八四（641～650・十部）　641捷録法原旁註　642祖庭事苑　643居家必備　644音韻日月燈　645山堂清話　646来舶僧贈友松子詩偈手巻　647歴朝金剛持験記　648眉公秘笈珍珠船　649元僧徳敷尺牘　650明人金涅詩
巻八五（651・一部）　651忠臣蔵自一回至六回
巻八六（652・一部）　652忠臣蔵自七回至十回
巻八七（653～657・五部）　653大清搢紳全書　654来舶人応崎人雨柳需口万年青詩　655行荇詩草　656傷寒炙治編跋　＊657（618）上諭条例
巻八八（658・一部）　658上諭条例
巻八九（659～661・三部）　659天文秘略　660皇明人物考　661鄭彩贈隠元禅師詩

巻九十　（662～678・十七部）＊662（15）丹桂籍　663唐詩金粉　664国朝山左詩鈔　665四庫全書総目　666四庫全書簡明目録　667詩韻含英　668韻府一隅　669清客沈初贈東都河上不白文　670朝鮮人応釈意戒需書　671倭漢類語　672洪潮和授男彬成通書　673池北偶談　674経済纂要　＊＊675（149・154）明史　＊676（24）滄溟集　＊677（81）天工開物　678図海見聞志

巻九一　（679・一部）　679古今議論纂

巻九二　（680～681・二部）　680古今議論纂　681靖臺実録

巻九三　（682～693・十二部）　＊682（449）司南蜚英　683釈独立倭語尺牘　684唐詩正声　685国朝七千詩集　686唐僧詩選　687客商手簡　688僧悦山尺牘　689琉球人条文　690陳元贇拝敬公寝陵詩　＊691（242）塵餘　＊692（467）独湛禅師全録　693清沈萬珍贈詩

巻九四　（694～697・四部）　694聖福略集　695中興偉略　＊＊696（170・609）弇州四部稿　697弇州続稿

巻九五　（698・一部）　698鎖国論上

巻九六　（699・一部）　699鎖国論下

巻九七　（700・一部）　700明季遺聞

巻九八　（701・一部）　701両朝憲章録

巻九九　（702～706・五部）　702王文粛公文集　703先哲叢談　704采覧異言　705元政身延記行　706羅山文集

巻一〇〇・巻一〇一（707・一部）　707林上珍東遊集

巻一〇二（708～712・五部）　708明詩綜　709諸尊宿題贈詩篇手巻　710周岐来贈北山氏四言詩　711雞壇嚶鳴　712孟涵九楊愚渓呈状

巻一〇三（713・一部）　713退渓先生文集
巻一〇四（714～722・九部）　714小倉山房詩鈔　715桃源遺事　716唐船盗犯告牌　717長崎顕微鏡　718東見記
719古今著聞集　720台記　721紫芝園前稿　722退私録稿
巻一〇五（723～724・二部）　723古事記　*724(540)日本書紀
巻一〇六・巻一〇七・巻一〇八（725・一部）　725日本書紀
巻一〇九・巻一一〇（726・一部）　726五事略
巻一一一（727～730・四部）　727槎客採聴録　728邏媽人欵状　729弘治年間来舶蛮人像　730豊大閤政所侍女書院
巻一一二（731・一部）　731長崎記
巻一一三（732～736・五部）　732長崎記　733玉櫛笥　734志州鳥羽小平次漂流欵状　735源君美長崎諭示文
736桂林漫録
巻一一四（737～740・四部）　737七種図考　738橘逸勢伝　739奥州津軽船頭義兵衛漂流欵状　740羽州秋田吉太郎漂流聞書
巻一一五（741・一部）　*741(472)鄭氏往復記事
巻一一六（742～750・九部）　742河三亥胡兆新程赤城筆語　743沈草亭詩　744程赤城弊帚集序　745李東郭南海詩稿序　746扶桑名勝詩集　*747(171)白石琉球人問答　748黄檗山万福禅寺住持交代記　749八曲戯文　750金鳳山十二景詩序
巻一一七・巻一一八（751・一部）　*751(489)善隣国宝記
巻一一九（752～753・二部）　752観鵞百譚　753白石紳書

巻一二〇（754～755・二部）　754新安手簡　755乗燭譚
巻一二一（756～762・七部）　756鳩巣収録　*757(509)問槎畸賞　758南畝莠言　759隠元達磨賛　560曇希叟詩
761大明一統志纂略　762彙刻書目初編
巻一二二・巻一二三（763・一部）　763続善隣国宝記
巻一二四・巻一二五（764・一部）　764又続善隣国宝記
巻一二六（765・一部）　765続善隣国宝外記
巻一二七（766～772・七部）　766小窻別記　767湧幢小品　768了菴禅師住育王山疏　769朝鮮権菊軒石丈山筆語
770讃州金毘羅祠来舶人聯一遍　771万天日録　772琉球神道記
巻一二八（773～781・九部）　773朝鮮国王贈琉球国王書　774王蘭谷俳諧筱栗集序　775孟涵九書俳諧発句　776伯州
漂流船朝鮮人詩　777天寿随筆　778光被録　779松島夜話　780先代旧事本紀　781古史通
巻一二九（782・一部）　782兵鏡
巻一三〇（783～787・五部）　783玄沙大師語録　784天台霞標　785扶桑鐘銘集　786隠元和尚雲濤三集　787空華
日工集
巻一三一（788～793・六部）　788佩文韻府　789佩文斎書画譜　790一帆風　791鄭審則与最澄印記真蹟摹本
792中国描談　793臥遊漫抄
巻一三二（794～805・十二部）　794唐詩金粉　795士林姓名随筆　796蕉窻漫筆　797鶴渓雑記　798東海談　799榊巷
談苑　800唐紅毛金銀銭図鑑　801唐国史補　802鉄眼禅師遺録　803中華若木詩抄　804授業編　805燕居偶筆
巻一三三（806・一部）　806異国来往記

巻一三四（807～819・十三部）　807皇明世説新語　808本草綱目補物品目録　809遯菴詩集　810万病回春　811続燈存藁　812徐天目文集　813先民伝　814延暦寺宝庫本書翰　815古今詩刪　816晩唐詩選　817古今真宝前集　818杜工部集　819杜詩集註

巻一三五（820～832・十三部）　820佩文斎書画譜　821唐才子伝　822高泉禅師語録　823崎陽集　824芥母禅師草書千字文跋　825本草綱目　826魯寮文集　827周岐来長崎八景詩　828観風互詠　829孟涵九芭蕉翁像賛　830群談採餘　831童子問　832長崎唐舘図

巻一三六・巻一三七・巻一三八・巻一三九・巻一四〇・巻一四一・巻一四二（833・一部）　833天下郡国利病書

巻一四三（834～844・十一部）　834経済類編　835文献通考纂　836唐詩選勝直解　837明詩大観　838盧山外集　839四溟詩話　840唐詩品彙　841和韓文会　842清俗紀聞　843国字医叢　844海国兵談

巻一四四（845～846・二部）　845事言要玄　846名文捷録補

巻一四五（847～849・三部）　847豊鑑　848豊臣太閤御書　849三国通覧図説

巻一四六・巻一四七・巻一四八（850・一部）　850鶏林唱和集

巻一四九（851～853・三部）　851鶏林唱和集　852朝鮮人筆談并贈答詩　853朝鮮年代記

巻一五〇（854～855・二部）　854韓客神相編　855文化辛未朝鮮聘使綴行図

巻一五一（856～858・三部）　856五燈会元　857義楚六帖　858仏祖統紀

巻一五二（859・一部）　859日本王代一覧

巻一五三（860～863・四部）　860絶海和尚語録　861程赤城書濃州養老泉碑銘　862上用沈南蘋百幅画図縮図　863東周列国全志

巻一五四・巻一五五・巻一五六・巻一五七・巻一五八・巻一五九・巻一六〇・巻一六一（864・一部）　864大日本史
巻一六二（865～867・三部）　865大日本史　866大日本史賛藪　867倭漢合運指掌図
巻一六三・巻一六四（868・一部）　868日本春秋
巻一六五（869～882・十四部）　869佩文斎書画譜　870渉猟集　871国史経籍志　872瑯琊代酔篇　873佩文韻府
874年代記　875厳助僧正往年記　876雲谷臥餘　877釈門孝伝　878豊山伝通記　879百体心経　880夢中問答
881済北集　*882(665)乾隆欽定四庫全書総目
巻一六六（883～885・三部）　883桑韓医問答　884琉球談　885中山伝信録琉人訳本
巻一六七（886～887・二部）　886中山伝信録琉人訳本　887全堺詳志
巻一六八（888～893・六部）　888林子全集　889標題綱鑑綜旨　890鶴楼遺編　891四大家文抄　892常山紀談
893常山随筆
巻一六九（894・一部）　*894(495)皇明象胥録
巻一七〇（895～900・六部）　895性理紀聞　*896(27)知不足斎叢書　897千百年眼　898大蔵法数　899群芳譜
900紀州漂流唐船問対
巻一七一（901～902・二部）　901長崎図志　902象胥記聞
巻一七二・巻一七三（903・一部）　903和韓唱酬集
巻一七四（904～905・二部）　904和韓唱酬集　905日蓮註画讃
巻一七五（906・一部）　906竜威秘書
巻一七六・巻一七七（907・一部）　907広東通志

巻一七八（908～910・三部）　908活板南浦文集　909神皇正統記　910本朝文粹
巻一七九（911～914・四部）　911皇代記　912皇年代略記　913如是院年代記　914関東評定伝
巻一八〇（915～919・五部）　915唐大和上東征伝　916南天竺婆羅門僧正碑文　917野馬臺詩偽書　918見宜翁伝
919称呼辨正
巻一八一（920・一部）　920普照国師広録
巻一八二（921・一部）　921普照国師年譜
巻一八三（922～924・三部）　922百練鈔　923輟耕小録　924日本後紀残（缺本）
巻一八四・巻一八五（925・一部）　925逸史
巻一八六（926～935・十部）　926佩文韻府拾遺　927続資治通鑑　928歴史綱鑑補　929文苑英華選　930小学紺珠
931睡餘録　932広韻　933篆字彙　934広事類賦　935皇朝武功紀盛
巻一八七（936・一部）　936三才図会
巻一八八（937・一部）　937続弘簡録
巻一八九・巻一九〇・巻一九一（938・一部）　938弇州山人四部稿
巻一九二・巻一九三・巻一九四・巻一九五・巻一九六・巻一九七・巻一九八（939・一部）939弇州山人続稿
巻一九九（940～941・二部）　940弇州山人続稿　941弇州堂列集
巻二〇〇（942～943・二部）　942弇州史料前集　943弇州史料後集
巻二〇一・巻二〇二・巻二〇三（944・一部）　944弇州史料後集
巻二〇四（945～952・八部）　945大学衍義補　946増続会通韻府群玉　947字貫　948占詩韻範　949両聖記

950菅神入宋授衣記　951秦箏相承血脈　952琵琶血脈
巻二〇五（953～958・六部）　953世々枢覧　954両東唱和録　955両東唱和後録　956両東唱和別録　957両東唱和続録　958詩学逢原
巻二〇六（959・一部）　959新撰姓氏録
巻二〇七（960～969・十部）　960熊耳文集　961皇明通紀統宗　962歴朝詩纂前編　963歴朝詩纂後編　964凌雲集　965扶桑集　966本朝麗藻　967文華秀麗集　968本朝無題詩　969都氏文集
巻二〇八（970～971・二部）　970享保四年朝鮮人来聘諸事留　971延享五年朝鮮人行列記
巻二〇九（972～973・二部）　972文会筆録　973折焼柴記
巻二一〇（974～978・五部）　974資治通鑑　975宋元通鑑　976資治通鑑釈文辨誤　977甲乙会紀　978皇明憲章類編
巻二一一・巻二一二・巻二一三・巻二一四・巻二一五（缺）（979・一部）　979皇明世法録
巻二一六（980～987・八部）　980御選唐宋詩醇　981秘伝花鏡　982増補万宝全書　983天中記　984松陰快談　985朝鮮信使登営式　986制度通　987同文通考
巻二一七（988～990・三部）　988万寿盛典　989居士伝　990林子
巻二一八・巻二一九・巻二二〇（991・一部）　991東国通鑑
巻二二一（992～994・三部）　992東国通鑑　993采覧異言　994本朝□史
巻二二二・巻二二三（995・一部）　995増訳采覧異言
巻二二四（996～1001・六部）　996韋□録　997孝経外伝或問　998江談抄　999明匠略伝　1000天下南禅寺記　1001東福紀年録

巻二二五（1002～1003・二部）　1002経済録　1003本朝学原浪華鈔
巻二二六（1004～1005・二部）　1004秋苑日渉　1005渡唐天神縁起
巻二二七（1006・一部）　1006衡口発
巻二二八（1007～1008・二部）　1007鉗狂人　1008水草上物語
巻二二九（1009～1017・九部）　1009百川学海　1010続百川学海　1011広百川学海　1012稗編　1013明詩別裁集　1014随園詩話補遺　1015獪園　1016清客贈戯子市川柏筵詩巻　1017国朝詩別裁集
巻二三〇（1018～1024・七部）　1018橘窓文集　1019橘窓茶話　1020翁草　1021茶譚雞肋　1022性霊集便蒙　1023佚存叢書　1024彙刻書目外集
巻二三一（1025～1030・六部）　1025論語注疏　1026五雑組（俎）　1027輟耕録　1028欽定軍器則例　1029七経孟子考文補遺　1030西洋記
巻二三二（1031・一部）　1031崎陽実記
巻二三三（1032～1036・五部）　1032竜図公案　1033増集続伝燈録　1034潜確類書　1035尺牘翰海　1035薬聖寿僊齢報単
巻二三四・巻二三五（1037・一部）　1037懲毖録
巻二三六（1038～1045・八部）　1038続文献通考纂　1039通語　1040本朝武員　1041笠翁詩韻　1042近代正説砕玉話　1043小豆島吉五郎漂流記　1044長崎諏訪大明神廟鐘銘并序　1045和漢朗詠集註
巻二三七・巻二三八・巻二三九・巻二四〇・巻二四一・巻二四二・巻二四三・巻二四四（1046・一部）　1046環海異聞
巻二四五（1047～1052・六部）　1047芸海珠塵　1048佩文詩韻広註　1049長水沈先生文鈔　1050月令広義　1051白石遺稿　1052柿本人丸事跡考

巻二四六・巻二四七・巻二四八・巻二四九（1053・一部）　1053朝鮮征伐記
巻二五〇（1054・一部）　1054朝鮮軍記
巻二五一（1055・一部）　1055文献通考
巻二五二（1056・一部）　1056天正漂流記
巻二五三（1057～1058・二部）　1057自娯集　1058日本国風
巻二五四（1059～1063・五部）　1059行水金鑑　1060郁離子　1061古文孝経　1062扶桑樹伝　1063東源中興録
巻二五五・巻二五六・巻二五七（1064・一部）　1064海外奇談
巻二五八・巻二五九・巻二六〇・巻二六一・巻二六二（1065・一部）　1065華夷変態
巻二六三（1066～1070・五部）　1066隆興仏教編年通論　1067閑散餘録　1068宋高僧伝　1069見聞軍抄　1070朝鮮金明旭吉祥寺修理前墻銘
巻二六四（1071～1072・二部）　1071経史子集合纂類語　1072欽定明鑑
巻二六五・巻二六六（1073・一部）　1073通鑑紀事本末
巻二六七（1074～1076・三部）　1074函史上編　1075函史下編　1076遵生八牋
巻二六八・巻二六九・巻二七〇（1077・一部）　1077辺要分界図考
巻二七一（1078～1085・八部）　1078桂洲奏議　1079霧霽？山人詩集　1080西垣歴署諸稿　1081宝洲禅師語録　1082東行日記　1083良論　1084南海伯玉詩稿　1085王弇州金魚賦
巻二七二（1086・一部）　1086韓客手口録
巻二七三（1087～1089・三部）　1087薄遊漫載　※1088(276)国姓爺鄭成功伝　1089春臺紫芝園稿

巻二七四（1090・一部）　1090清国漂流記
巻二七五（1091・一部）　1091豊臣秀吉記
巻二七六（1092・一部）　1092南島志
巻二七七（1093～1094・二部）　1093豫章記　1094八幡愚童訓
巻二七八（1095～1100・六部）　1095泉南雑志　1096呉社編　1097山海経　1098燕市集　1099客越志　1100晋陵集
巻二七九（1101～1105・五部）　1101韓客治験　1102朝鮮南秋月題　1103図書考略記　1104図絵宝鑑続編　1105蘿山文集
巻二八〇（1106～1107・二部）　1106赤蝦夷風説考　1107瑞竜寺碑程赤城書
巻二八一（1108～1115・八部）　1108八函　1109山海経広註　1110叡岳要記　1111駿牛絵詞　1112国牛十図　1113名媛詩帰　1114路史　1115五代帝王物語
巻二八二・巻二八三（1116・一部）　1116三国史記
巻二八四・巻二八五（1117・一部）　1117東西洋考
巻二八六（1118・一部）　1118仏光国師語録
巻二八七（1119～1120・二部）　1119両朝従信録　1120東遷成基
巻二八八・巻二八九・巻二九〇（1121・一部）　1121国史実録
巻二九一（1122～1127・六部）　1122国史実録　1123杏林筆談　1124萍水奇賞　1125紀州漂船呈状　1126北磵詩集　1127五音類聚
巻二九二（1128・一部）　1128朝鮮漂流日記
巻二九三（1129・一部）　1129藩翰譜

巻二九四（1130～1136・七部）　1130唐類函　1131鶴楼遺篇　1132常山楼筆餘　1133槐記　1134年山打聞　1135士峰録
1136善隣風雅後編
巻二九五（1137～1140・四部）　1137大義覚迷録　1138宋元通鑑節要　1139通鑑綱目三編　1140王文粛公奏草
巻二九六（1141～1142・二部）　1141宗子相集　1142湯子遺書
巻二九七（1143～1145・三部）　1143金鰲新話　1144古梅園墨譜　1145日本国考略補遺
巻二九八（1146～1149・四部）　1146鳩巣書簡　1147高皇帝御製文集　1148紀効新書　1149蘭書日本図説
巻二九九（1150～1157・八部）　1150六書正譌　1151禹貢錐指　1152羅圭峰文集　1153梁渓詩鈔　1154皇明要考　1155遵生八牋　1156覚世名言十二楼　1157八僊卓燕式記
巻三〇〇（1158～1169・十二部）　1158佩文韻府　1159佩文韻府拾遺　1160印典　1161皇明表衡　1162武編　1163増訂広輿記　1164天経或問　1165星士釈　1166分類通攷竜頭雑字　1167士民便用通考雑字　1168諸書直音世事通考　1169切用正音郷談類字大全
巻三〇一（1170～1181・十二部）　1170格致鏡原　1171四明尊者教行録　1172長山県志　1173竜門県志　1174青浦県志
1175蘭暉堂集　1176重修浦江県志　1177南海県志　1178満漢官爵全本　1179新刻爵秩全覧　1180林公奏本
1181西京正音
巻三〇二（1182・一部）　1182本朝通鑑
巻三〇三（1183～1186・四部）　1183本朝通鑑　1184本朝通鑑前編　1185続本朝通鑑　1186本朝通鑑附録
巻三〇四（1187・一部）　1187本朝通鑑提要
巻三〇五（1188～1191・四部）　1188本朝通鑑提要　1189遠碧軒記　1190本朝画史　1191宝暦韓人来聘事

巻三〇六（1192～1200・九部）　1192唐荊川文集　1193林次崖文集　1194山海経広註　1195本草滙　1196聯珠詩格註
1197歴代草書選　1198迪吉録後集　1199日本刀図　1200士商類要
巻三〇七（1201・一部）　1201水滸後伝
巻三〇八（1202・一部）　1202参考太平記
巻三〇九（1203～1208・六部）　1203朝鮮李南岡備後鞆浦対潮楼額字　1204清商呉徳璋尺牘　1205続古梅園墨譜　1206勒山
周珞詩　1207贈舟禅師往日本詩　1208羅山神武天皇論釈
巻三一〇（1209～1210・二部）　1209山城名勝志　1210芸州船虎市丸清国漂流記
巻三一一（1211～1213・三部）　1211明季南略　1212袁了凡。両行斎集　1213表若思抱膝斎集
巻三一二（1214・一部）　1214明史
巻三一三（1215～1223・九部）　1215唐詩品彙　1216近充集　1217菅家文草　1218笑林広記　1219濟寧居文集　1220呉郡甫
里志　1221説類　1222唐話纂要　1223鞆浦対潮楼韓人詩
巻三一四（1224～1128・五部）　1224情史類略　1225金華府志　1226中古日本治乱記　1227撫異記　1228長元節孝祠志
巻三一五（1229・一部）　1229列朝詩集

以上が「抄撮書目」の全容である。便宜上、わたくしがつけた通しナンバーによれば、一二二九部ということになるが、＊印（二見）のものは、154(149)・175(4)・194(176)・246(3)・248(116)・312(?)・364(363)・399(20)・406(180)・438(437)・446(445)・537(52)・595(330)・630(409)・632(?)・634(308)・635(250)・657(618)・662(15)・676(24)・677(81)・682(449)・691(242)・692(467)・724(540)・741(472)・747(171)・751(489)・757(509)・882(665)・894(495)・896(27)・1088(276)の三十三部。しかし、じつは491(490)・609(170)の二部は＊印（二見）とすべきを雅嘉が見落したものとおもわれるから、これをくわえると計

三十五部となる。ところがわたくしが312(?)・632(?)としたのは、「二見」と書いてはあるが、前出の書名を発見できなかつたので、これは雅嘉の勘ちがいであろうとおもう。けつきよく、さしひき計三十三部が*印(二見)ということになる。つぎに、**印三見のものは310(3 246)・345(176 194)・675(149 154)・696(170 609)の四部。そこで、これらの重複計三十七部をのぞくと、引書はいちおう一一九二部(1229—37)ということになる。しかし、雅嘉がしるした「二見」「三見」のいみは、かならずしも明確ではない。書名として、いわゆる二見・三見するものは、けつして雅嘉が指摘したものだけではないからである。たとえば、*二見を364(363)・438(437)・446(445)のような基準でゆけば、22 490 594 707 725 726 763 764 833 850 864 868 903 907 925 938 939 944 979 991 995 1037 1046 1053 1064 1065 1073 1077 1116 1117 1121は二見、490 725 850 938 944 991 1064 1077 1121は三見、1053は四見、594 979 1065は五見、833 939は七見、1 864 046は八見、ということになろう。因みに、雅嘉は巻一八一(920)から改葉し、あらためて「続異称日本伝目録」とかいているところから判断すると、巻一八〇(919)までを、いちおうの区ぎりと考えていたのかもしれない。しかし、わたくしが問題にするのは、各書の出入・重出の指摘の不備ではなくて、むしろ雅嘉の根性というべき巨大冊編集への執念である。すくなくとも一二二九部について、関係記事を丹念に鈔録し、三百十五冊にまとめあげた勤労は、まことにみごとなものである。

三　国立国会図書館本について

(一)　体裁と引書目録

国会図書館本は、旧上野帝国図書館本一〇五冊である。昭和二十四年(一九四九)、わたくしがはじめて調査したときは、カードにものっておらず、閲覧係員にたずねても架蔵していることすらしらず、わたくしの再三の質問にも「ありません」の一点ばりだつた。わたくしは戦前、たしかに所蔵されていることを確聞していたから、執拗にたず

ねたが、その日はついにあきらめ、念のため再調査を依頼して、水戸に帰ろうとしたとたん、別の係員（係長か）から声をかけられ、けつきよく一センチ以上もほこりをかぶっている同書数冊を、はたきといっしよに借出したことが、いまも鮮烈にあたまにのこっている。おそらく当時、未整理のまま、借出すひともなく、書庫の一隅に完全に眠っていたのであろう。

さて、国会図書館本に移行された同書は、美濃判、線装袋綴。半葉十行・行二十字、楷書ないし行書体のきれいな写本（註8）。各冊の表紙は、篆書で「帝国図書館蔵」と中央左右一面に書きわけた文字入りの紙をもちい、左上に「続異称日本伝　一」のような、わくつきの表題紙をはる。各巻の第一葉には目録（引書）をしるし、第二葉から本文にはいる。各冊の第一葉の右上に二字三行「帝国図書館蔵」の押印、右下に円印二つ。いずれも「図」の字を中心に、そのまわりに年月日が記入されている。円印が不鮮明で判読しがたいものもあるが、たとえば、第一冊・巻之一をみると、上の円印には「明治三八・一一・一三・製本」、下の円印には「明治三七・一二・一五・購求」とあるから、明治三十七年（一九〇四）十二月十五日に購求したものを、翌三十八年（一九〇五）十一月十三日に製本したことがわかる。試みにすこしとんで、第七冊・巻之十九をみると、上の円印には「明治三八・一一・一三・製本」、下の円印には「明治三八・一・二六・購求」とあり、つぎの第八冊・巻二十二をみると、上の円印には「明治三八・一一・一三・製本」とおなじだが、下の円印には「明治三七・一二・二三・購求」とみえ、購求日は前後していても、製本日はいずれも同じことがしられる。なお、国会図書館本は、東大史料本にみるような菅茶山の叙文も、全冊目録である抄撮書目のたぐいはなく、各冊目録があるにすぎない。

（二）　東大史料本との比較

東大史料本と国会図書館本の体裁上の最大のちがいは、冊数三一五冊と一〇五冊、菅茶山の叙の有無、全冊目録

（抄撮書目）の有無ということである。内容の異同・出入については、両書各冊巻各葉についての比較精査が必要であるが、本稿ではその紙幅がない。よって、つぎにその問題点と、わたくしの『異称日本伝の類書続編の研究』の総括的な展望をのべておきたい。

一、両書の各冊巻別に、葉数と半葉行字数を確認し比較して、対照一覧表をつくる。

二、三一五冊と一〇五冊のちがいを、冊巻別に比較して、対照一覧表をつくる。

三、全冊目録と各冊目録、および本文引書とを比較して、その異同・出入をただす。

四、引書の国別（中国・朝鮮・日本など）、年代別に再整理し、五十音順の索引をつくる。

五、すでに研究した林恕の国史外考、鈴木長頼の本朝外考、山本信有の日本外志、小宮山昌秀の補異称日本伝、撰者不詳の異称日本伝補遺、撰者不詳の続異称日本伝、岡本保孝の続異称日本伝、小原良直の続異称日本伝、尾崎雅嘉の続異称日本伝などを、相互に比較研究する。

六、研究の出発点となった松下見林の異称日本伝の引書を原点とし、伊藤松の隣交徴書をはじめ、それ以後に撰著された前記のような類書・続編を年代順に配列して、その引書の重出と引用文の内容とを比較検討する。

七、発掘された新史料を確認して追加し、重出引書は各書別、および全体として検索できるようにする。

八、異称日本伝とその類書・続編を総括した「引書国別・年代別一覧表」を作成し、「引書索引」「項目索引」をつける。

九、わたくしの宿願は、以上の研究をとおし、わたくし独自の史料や見解をふまえて、石原道博編著『新異称日本伝』を完成するにある。『新異称日本伝』は諸史料を網羅集大成した巨冊と、その中から重要史料を撰択した別冊『新異称日本伝要略』の二種を想定している。

一〇、以上は中国古代から清代までであるが、中華民国以後のいうなれば『続新異称日本伝』を、どのようなかたちで編集するか。各種のおびただしい史料をまえにしながら、困惑して沈潜する昨今である（註9）。

補註

（1）石原道博『異称日本伝の類書続編の研究』第一部～第九部は、つぎのとおり。1中国史書日本関係記事の集録について、山崎先生退官記念東洋史学論集、一九六七年十二月。2朝鮮史書日本関係記事の集録について、朝鮮学報四八、高橋亨博士追悼記念、一九六八年七月。3内閣文庫蔵の国史外考と本朝外考について、茨城大学人文学部紀要・文学科論集三、一九六九年十二月。4日本外志の写本四種について、同紀要・文学科論集四、一九七〇年十二月。5補異称日本伝について、同紀要・文学科論集五、一九七一年十二月。6撰者不詳の異称日本伝補遺について、日本歴史二七五、一九七一年四月。7同名異本の続異称日本伝五種について、森克己博士古稀記念・対外関係と政治文化、一九七三年。8小原良直の続異称日本伝について（未定稿）。9尾崎雅嘉の続異称日本伝の写本七種（本稿）。

（2）国書総書目、第五巻、岩波書店、昭和四十二年（一九六七）十一月、三〇〇頁、四段。

（3）石原道博、同名異本の続異称日本伝五種について（前出）、註（1）参照。

（4）石原道博、尾崎雅嘉の続異称日本伝について、大安七―一〇、昭和三十六年（一九六一）十月。

（5）東大史科本、尾崎雅嘉、続異称日本伝、三一五冊の架号は、二〇四五・三・一

（6）第二葉前の「続異称日本伝叙」の右下に「□古／□今／堂」の押印があるが、判読しがたい。後考にまつ。

（7）第四葉前の「続異称日本伝抄撮書目」の右下二つの押印のうち、上は二字三行「蘿月」の文字がみえ、また下は二字二行「有魚之章」とあるから、いずれも雅嘉の印であることはまちがいない。

（8）国会図書館（旧上野帝国図書館）本、尾崎雅嘉、続異称日本伝、一〇五冊の架号は二四四・一〇六・一六五。

（9）わたくしの『異称日本伝の類書続編の研究』は、いいかえれば、「日本関係中国・朝鮮史料の研究」である。日中朝三国の真の平和と友好の原点は、三国の相互理解にある、という宿志からスタートしたもので、このことは、ひとり極東三国間の問題にとどまるものではあるまい。

―一九七二年八月四日稿